

## 聴覚障害幼児の言葉を育てる視覚的教材

～いつでも、どこでも、だれとでも使える視覚的プリント教材～

森 敬子・澤田 真喜子

聴覚に障害のある幼児にとって、聞こえにくさを補い理解力や言語力を育てていくために視覚的教材を使用することは有効な手立ての一つとなる。そこで、視覚的プリント教材を行事や日常の生活で使用することで、子どもの理解や言葉でのやりとりがより深まるのではないかと考え、幼稚園3歳児から5歳児にかけて年齢ごとに作成し、学校および家庭で使用した。本研究では、その教材を使用して取り組んだ3年間の実践を振り返り、年齢ごとの視覚的プリント教材の内容や使用方法、幼児の変化、保護者への提示の仕方について検討した。

キー・ワード：視覚的教材 理解 言語獲得 コミュニケーション 保護者支援

### 1. はじめに

本校幼稚園では、以前から、遠足のしおり等で視覚的な教材は使用してきた。使用することにより、親子で様々なことを考える材料になったり、繰り返し見て内容の理解を深めたり、身近な人と話すきっかけになったりしていた。幼児にとって、視覚的教材はやりとりの手掛かりとして、また、理解力や言語力を育てるうえで有効であると考えられる。本研究では、令和3年度から令和5年度にかけて作成した行事や日常生活に関する視覚的プリント教材の活用について、幼稚園3歳児から5歳児を対象に取り組んだ3年間の実践を振り返り、教材の内容や使用方法、幼児の変化について年齢ごとに分析し、保護者への提示の仕方に関する検討を踏まえ、視覚的教材を使用した取組の成果や課題について明らかにする。

### 2. 方法

#### (1) 対象児

令和3年度から令和5年度にかけて筆者2名が担当した幼児であり、令和3年度(3歳児)は8名、令和4年度(4歳児)は7名、令和5年度(5歳児)は7名であった。

#### (2) 視覚的プリント教材の概要

遠足、校外学習(地域の商店街への買い物、図書

館、いちご狩り等)、肝試し、クッキング、教員の出張先のことについて視覚的プリント教材を作成した。

また、作成、使用した視覚的プリント教材数は、年齢が上がるごとに増え、3歳児は4教材、4歳児は8教材、5歳児は17教材であった。

#### (3) 視覚的プリント教材使用に関する手続き

視覚的プリント教材の作成は、筆者2名が共同で行い、「子どもの年齢や発達に合った文を考える担当」と「イラストを描く担当」を分担した。

教材の使用に関しては、各学級で扱った後、家庭でも使用してもらうために、その日のうちに子ども(保護者)に教材を配布した。配布の際には、教材の扱い方を保護者に説明した。

### 3. 教材の特徴や使用方法について

視覚的プリント教材の使用については、初めに子ども達全体に提示する。子どもは興味をもったこと(絵や文字、文等)を表出してくるので、それに応えながら、やりとりを始めるようにした。

以下に、年齢ごとの教材の特徴を示し、子どもの様子と変化について述べた。

① 3歳児

イラストが多めで、文字はほとんどないのが特徴である。視覚的プリント教材の他に、写真や実物の教材を多く使用してきた。子どもからの表出が少ない時期であり、教員は子どものどんな小さな表出も受け取ることを大切にしてきた。保護者には、子どもからの指差しや声、身振り、言葉の表出に応じてコミュニケーションをとってほしいことを伝えた。子ども達からの指差しや声、身振り、言葉の表出も増え子どもと教員、子どもと保護者のコミュニケーションが広がっていった。Fig.1の教材では、校外学習で、隣の市にある大きな公園に遊びに行った時に使用した。子どもが、保護者や教員、周囲の人とのやりとりの中で思ったことを自由に表出できるように、イラストを多く取り入れた。

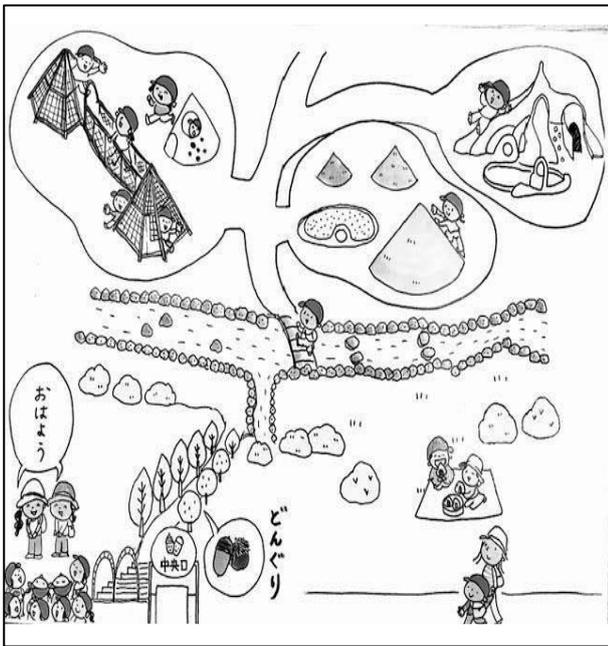


Fig.1 3歳児 視覚的プリント教材

② 4歳児

文字入りになった点が、特徴である。「いつ」「どこ」「だれ」「何をする」等の項目が加わっていった。全部、教員が作成してしまうのではなく、お子さんとやりとりをして、保護者にイラストや文字を書き込んでもらったこともある。保護者には、子どもが興味をもったことから、やりとりをたくさんしてほしいことや親子で意味がわかる通じ合いをしてほ

しいことを伝えた。子どもが自主的に視覚的プリント教材を手にとり、表出することが増えていき、クラスみんなで共通の話題でやりとりができることに繋がった。Fig.2の教材では、校外学習で都内の図書館に行った時に使用した。イラストには、子どもと保護者が期待感をもち当日を迎えられるように、実際の絵本に囲まれたホールのイラストを入れた。Fig.3の教材では、自宅から集合場所までの経路は子どもによって違い、保護者にイラスト入りで描きこんでもらった。事前にやりとりしたり、当日現地に移動しながら使用したりして、見通しをもつて行動することができた。

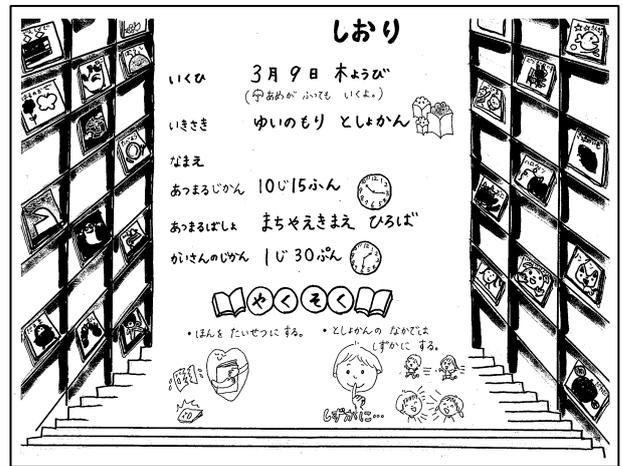


Fig.2 4歳児 視覚的プリント教材



Fig.3 4歳児 視覚的プリント教材

③ 5歳児

3歳児ではプリント1枚の使用だったが、4歳児では1枚から2枚使用に変化し、5歳児になると最大4枚位になり、文字もイラストも増えていった点が特徴である。5歳児になると文字で書かれたことが読んでわかるようになってくる。その成長に合わせて、新しく知ってほしい語彙、使ってほしい構文を多く入れた。また、「どうしてかな」「なんでかな」と子どもが考えられるような文も取り入れた。例えば、子ども達が住んでいる千葉県や祖父母が住んでいる都道府県からさらに知識が広がるように、教員の出張先を教材にしたこともあった (Fig. 4)。教材プリントを配布すると、文を声に出して読む様子が見られた。保護者には、子どもとのやりとりを楽しみ、その中で子どもが考えられる場面も作ってほしいこと、また、知っておきたい語彙を使い聞かせてほしいことを伝えた。

子ども同士のやりとりが増え、話し合い活動の話題になることもあった。また、自分の経験したことを順序立てて話したり書いたりすることもできるようになっていった。



Fig. 4 5歳児 視覚的プリント教材

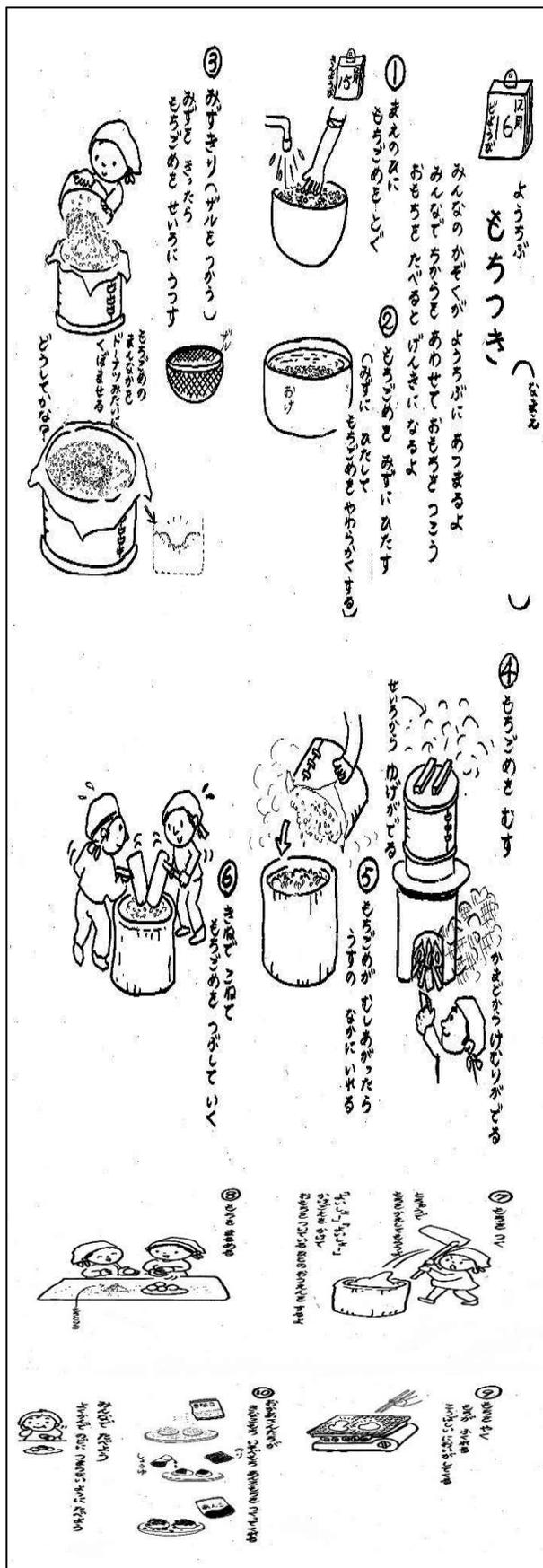


Fig. 5 5歳児 視覚的プリント教材

#### 4. 保護者への提示

視覚的プリント教材を使用する時には、学校で必ず扱い、毎回、保護者にどのように使用してほしいかポイントを絞って伝えてきた。また、子どもと一緒に見て、家庭でも事前事後にやりとりを楽しんでほしいこと、子どもがいつでも手にとって見られる場所に保管してほしいことも併せて伝えた。

「餅つき」行事の視覚的プリント教材 (Fig. 5) を使用後、保護者にアンケートをとった。その回答の中からいくつか抜粋してまとめた (Table. 1)。保護者からは、普段、関わる人が多い母親だけでなく父親やきょうだい、祖父母とも使用したとの回答もあった。

アンケートの内容項目は、以下の通りである。

- ① いつどのように、お子さんと一緒に使いましたか。
- ② お子さんの気付き、言葉の広がりなどはどんな様子でしたか。
- ③ お母さんは、使用されてどうでしたか。

Table. 1 保護者向けアンケートの回答 (抜粋)

- ・すごく分かりやすく書いてあり、家でのやりとりに役立ちました。知らない言葉、読めない字があると質問してきた。子どもからどンドン話が出てきた。
- ・教材プリントがあると、やりとりがしやすく視覚で入るので、パッと興味を持ってくれる。
- ・子どもが自分で意欲的に見ようとしていた。前年のことを思い出しながら話していた。
- ・イラストがあると、とても助かることが多い。
- ・色々な言葉に触れられたり、親も知らなかったことを知れた良い教材でした。
- ・他の家族もプリントを見てくれ「どうしてなんだろうね。こうなんじゃない。」「昔はこうだったよ。」等、餅つきへの期待が高まったように思った。
- ・事後のやりとりを大切にしている、その際にもプリントを使わせていただきやりとりがしやすかったです。
- ・プリント配付のタイミングですが、やはり休日が時間的にも気持ち的にも、ゆったり関わられるので、週末にいただけたら嬉しいのかなと思います。

#### 5. 成果と課題

子どもの年齢や発達に合わせた手作りの視覚的プリント教材となるため、子ども達が興味をもち活動に参加して、実際に経験したことが言語獲得に繋がった。使用していく中で、子ども達の成長や理解の深まり、そして、子どもと保護者とのやりとりが増えたことに比例して、視覚的プリント教材の内容等が変化していった。子ども達が、文字が読めるようになり、文字のみの視覚的プリント教材を使用したこともあるが、イラスト入りの方が興味を示していた。

日常生活の中で、子どもの理解や言語獲得に繋がるように、イラスト、写真カード、実物等を教材として使用している。学校では、板書も活用しているが、視覚的プリント教材は、いつでも子ども自身が手にとって使用できる。

保護者に視覚的プリント教材の感想を、アンケート形式で書いて提出してもらった。結果、行事の数日前に配布するより、休日を挟んだ方が家庭で十分に扱えることが把握でき、配布時期については配慮が必要であった。今後も、子どもの発達、年齢、興味や関心に合った教材の作成、保護者へ提示する時間の確保、教材活用の意図や使用方法の分かりやすい伝え方などを検討しながら、子ども達の言語を育てていく手立てとして活用していきたい。

#### 〔付記〕

本研究は、筑波大学附属聴覚特別支援学校研究倫理審査委員会の承認を受けて実施されたものである。